

News Source

大谷大学図書館の取り組み

第17回 図書館総合展 ～ポスターセッションに参加して～

本学図書館は、2015年11月10日から12日の3日間、パシフィコ横浜で行われた第17回図書館総合展のポスターセッションに参加した。図書館総合展とは、大学図書館、公共図書館、図書館に関わる企業といった図書館に関係している人や機関が、学術情報や最新技術などの情報を提供・紹介・共有する日本の図書館界最大の展示会である。この総合展では、図書館について考える様々なフォーラム、図書館の最新技術・動向を提供する企業ブース、各機関の取り組みを紹介するポスターセッションが開かれている。

今回、本学図書館は日々取り組んでいる“本の修理”についてポスターを作成した。以下、ポスターセッションの報告と、本学図書館での本の修理についての取り組みを紹介する。

◆参加報告

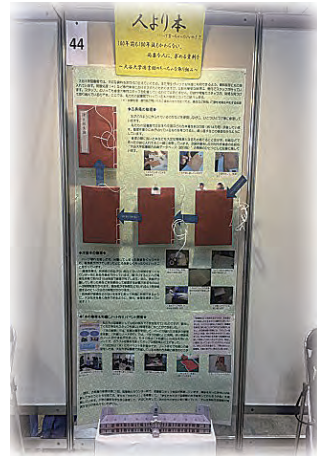
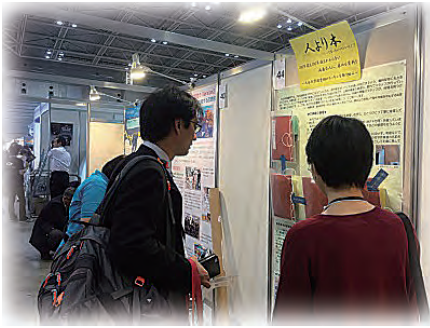
ポスターセッション会場では、約70のポスターが出展されており、利用案内や図書館グッズを貼り付けたり、活動写真を散りばめたり、紙で工作をして立体的に仕上げたりと工夫を凝らした作品が並んでいた。また、各々のポスターの前では出展者が時間を決めて取り組みの紹介をしており、観客が熱心に耳を傾けたり、情報共有したりしている姿が多く見られた。

本学図書館は『人より本・・・って言っちゃっていいの！？ 100年前も100年後もかわらない、必要な人に、求める資料を～大谷大学図書館のちっちゃな取り組み～』というタイトルを上部に大きく掲示し、全体的に落ち着いた緑色を使用した優しい、和の雰囲気溢れるポスターを出展した。大きさは縦180センチメートル、横90センチメートルの縦長のポスターで、中央には“和装本修理の流れ”を紹介するための手作り和装本を立体的に飾ることで、インパクトが出るように工夫した。そして、大谷大学のシンボルである“尋源館”を立体模型で作成し、ポスターの下部に設置して大谷大学をアピールした。

ポスター内容は、①和装本修理 ②洋装本修理 ③本の修理イベント の3項目で構成し、本学図書館ではどのように本の修理を行っているのか、大切な資料を長く利用するための保存の工夫、本学図書館が学生に向けて開催したイベントについて紹介した。本学ポスターを見た他大学図書館の職員や図書館関連企業、学生から、「学生に古書を触ってもらえる良い機会作りですね」、「自分で本を修理できるって初めて知りました」、「本の修理をする専門スタッフが少ないので、是非、参

考にしたい」などの声を多くいただいた。

今回のポスターセッションを通して、図書館における修理の在り方、資料保存の重要性、学生を交えた図書館活動など、今後の課題として向き合っていきたいと感じた。



◆本の修理を通して

本学図書館では、大切な資料を長く保存し利用者に提供できるよう、自分たちでできることから始めよう！と図書館スタッフが和紙や糊、糸などを使って、本のページ破れ、背表紙の補修、和装本の糸綴じ直しなどの修理を業務の合間に行っている。

2015年6月、11月には、学生に向けて図書館企画の“本の修理”イベントも開催した。このイベントは、学生に図書館の本にもっと触れてほしい、資料を大切に扱ってほしいという思いから行ったもので、雑誌のページ破れを修理したり、和装本の糸綴じ体験としてオリジナルノートを作ったり、本学所蔵の古典籍を実際に修理したりした。学生からは「もっとやってみたい!」、「本を大切にしようと思った」と、大好評であった。

また、木曜日の午後(※不定期)、図書館2階奥カウンター前で、スタッフが学生自由参加型の古典籍修理のワークショップを行っている。今後も学生と協力して、図書館をより良くしていく活動を積極的に行っていきたい。

〈文責：図書館グループワークチーム〉

